

ぎふ花と緑の振興コンソーシアム（岐阜県）

協議会構成団体：岐阜県園芸特産振興会、岐阜花き流通センター農業協同組合、岐阜県グリーンサービス協同組合、岐阜生花市場協同組合、全国農業協同組合連合会岐阜県本部、花キューピット岐阜支部、岐阜県（農政部）他、企業会員36、学術会員11、行政・団体会員25

対象品目

切花：フランネルフラワー

鉢花：フランネルフラワー



切花フランネルフラワー



鉢花フランネルフラワー

< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- 令和5年に岐阜生花市場に導入した電子取引システムについて、生産者はオンライン上で生育状況や出荷量を入力できるようになったが、システムの利用が進んでいない。生産者に市場システムにて情報発信する必要性を啓発するため、販売の専門家等による研修会を開催した。
- 切花フランネルフラワーの流通の効率化を図るため、市場を交えた出荷規格の見直し検討会や意見交換を行った。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- 県民による花きの消費喚起のため、異業種である総合住宅展示場と連携し、「花のある暮らし」をテーマとしたイベントを開催した。
- 花き購入意識の向上や情操教育のため、花き文化団体が講師となり、小中学校等を対象に花育教室を開催した。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- フランネルフラワーの生産者は平野部から中山間地まで県内に広く分布しており、各地域で気象条件が異なること、また近年の異常気象もあり、一律の温度管理指針で対応することが困難になっている。そのため各地域の生産者に環境モニタリング装置を導入し、環境モニタリングデータを活用した栽培方法の実証を図った。

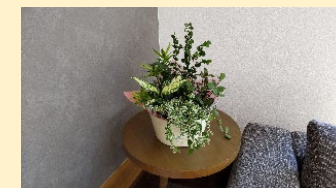
< 取組の成果 >

- 研修に参加した岐阜生花市場を利用する生産者に、産地情報の発信の必要性について理解を深めてもらった。
- 切花フランネルフラワーの出荷規格については、令和5年に新たな規格を増やす見直しを行ったが、出荷の手間の増加につながったことから、既存の出荷規格の簡素化を図り、流通の省力化に努めた。



情報発信についての研修会

- イベント参加者へのアンケート（回答数127人）では、「家庭でも花を飾りたいと思った」と回答した割合は90%で、花き購入の意識付けができた。
- 花育教室参加者へのアンケート（回答数1,012人）では、「家でも花を飾ろうと思った」と回答した割合は53%で、花き購入の意識付けができた。
- 1世帯あたりの年間の花きの購入金額は、令和6年度が9,230円、令和5年度が10,624円であり、若干減少した（岐阜市、総務省家計調査による）



モデルハウスでの花飾り

- 県内7カ所（西濃2、揖斐2、郡上1、可茂2）の生産者に環境モニタリング装置を設置し、11月から環境モニタリングデータを取得を始めた。県の関係機関（試験研究、農業普及）がモニタリング装置がある温室で生育調査も実施しており、今後、環境モニタリングデータと併せて栽培方法を検討していく。



環境モニタリング装置

< 今後の取組予定 >

- 流通の効率化については、岐阜花き流通センターの出荷情報システムを新しく見直すため、検討会や先進地視察を行う。
また、岐阜花き流通センターにおいて集出荷作業の効率化や高温対策の手法についても検討を行う。
- 社会人向けイベントや花育教室については、アンケート結果等をもとに内容の改善を図っていく。
- 技術実証については、近年、少量・多品種生産が普及して灌水作業の負担が課題になっており、灌水作業の省力化を検討する。

愛知県花きイノベーション地域協議会（愛知県）

協議会構成団体：愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知名港花き卸売事業協同組合、一般社団法人愛知県花き市場組合、愛知豊明花き流通協同組合、三河生花協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会愛知県支部、日本ハンギングバスケット協会愛知県支部、中日いけばな協会、特定非営利法人花文化を無形文化遺産に推める会、あいち花マルシェ実行委員会、豊橋市、豊川市、田原市、愛知県

対象品目

切り花：キク、バラ、カーネーション、グロリオサ、デルフィニウム、スイートピー

鉢物：アジサイ、シクラメン、ポインセチア、コチョウラン、シンビジウム、秋用花壇苗、ポットマム、クルクマ、観葉植物



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

・輪ギクの現状出荷規格である90センチを80～85センチに変更し、合わせて箱のサイズもコンパクトにすることで、生産コスト及び流通コストの抑制、生産者の所得向上を目指す実証を行った。

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

・輪ギクの供給過多対策として、既存の施設を生かした他品目への転換が有効である。そこで、輪ギクと同一作型生産が可能でホームユースでも長く鑑賞可能な小輪スプレーマムの品種・系統を選定した。

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

・産地の花きを使用したクリスマスのフラワーアレンジメント講座を通して、地元産花きのPRやリラックス・ストレス緩和に繋がる花のある暮らしの提案を行うとともに、花きの消費拡大を促す活動を行った。

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

・露地小ギクは8月の旧盆が最需要期であるが、気温や日照時間により開花期が左右され、適期出荷の妨げになっている。そこで、複数品種において、LEDを用いた暗期中断による電照適応性を検討することで、8月旧盆出荷に向けた電照栽培の品種分類を目指す実証を行った。

< 取組の成果 >

・出荷規格を5センチ短縮し、箱サイズも同様に5センチ縮小することで、4円/箱のコスト減が図られた。また、規格の見直しにより秀品率が20%向上した。規格変更で心配された令和7年度の年間契約数も10.7%上昇するなど、生産者の所得向上に資する結果となった。

・一方、生産コストの抑制については劇的な効果は実証できず、品質担保の点で課題が残った。

・夏季栽培作型においては12品種・系統の試験を行ったが、茎の伸長性が劣る又は立枯病に弱いという欠点が見られ、夏秋系輪ギク品種との同一作型生産に適する系統は見られなかった。

・冬季栽培作型においては12品種・系統の試験を行った結果、茎の伸長性や花形の優れた1系統「22-N-4-2」が、秋系輪ギク品種との同一作型生産に適する系統と考えられた。

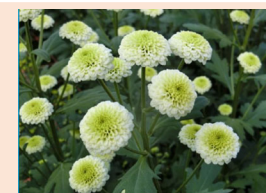
・社会人を対象とした講座の参加者20名に後日アンケートを行った結果、花きの購入金額が体験前の700円から体験後には1,373円と約2倍に増加した。

・また、体験終了後のアンケートでは、「体験を通して癒された」、「今回の体験を自宅でもやってみようと思う」と回答した体験者が70%に到達し、参加者全員が「またやりたい」と回答した。

・白、黄、赤系の計6品種において、22時から2時までの4時間の暗期中断を定植から6/15まで実施した結果、白「めざめ」及び黄「ひでよ」について、目標とする8月旧盆に合わせた収穫が可能となり、電照適応性が確認されたことで品種分類を行うことができた。



規格の比較



選定品種



アレンジメント作品

品種	平均 収穫日 (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	75cm 調整重 (g)
小雨	8/2	108.7	54.9	37.4
めざめ	8/4	93.2	64.4	45.1
寿光	8/9	108.7	73.7	51.9
ひでよ	8/4	106.7	61.1	40.3
恋心	8/7	89.2	61.4	48.9
紅奴	7/29	103.3	55.2	35.5

各品種の切り花品質

< 今後の取組予定 >

・今回の結果を精査し、引き続き各品目毎の規格の見直しを行うとともに、生産流通コスト削減を目指した積載効率の検証を実施する。

・選定系統の三次選抜と現地適応性試験を実施する予定。

・花きに触れる機会が今回限りとならぬよう、セミナー等と絡めて体験教室を実施するなど、持続的な消費促進を図っていく。

・赤品種の電照処理時期を変えることで電照適応性を検討し、品種分類を行う。

花の国づくり三重県協議会（三重県）

協議会構成団体：三重県花植木振興会、三重県花商組合連合会、(公社)日本フラワーデザイナー協会三重県支部、三重県インドアグリーン協会、(一社)日本ハンギングバスケット協会三重県支部、三重県園芸福祉ネットワーク、(一社)JFTD58花キューピット三重支部、株式会社伊勢生花地方卸売市場、三重県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、三重県ボランティア連絡協議会、(公社)三重県観光連盟、三重テレビ放送株式会社、株式会社伊勢新聞社、三重県市長会、三重県町村会、三重県

対象品目

切り花：バラ、ガーベラ
観葉植物、鉢もの類、
花壇苗、県産花き花木全般



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

- ・市場関係者を交えた物流対策の検討会や研修会等の開催、先進地事例調査（運送業者・出荷団体等）
- ・鉢物・植木産地での共通規格台車導入、集出荷情報システムの導入実証

- ・物流に関する研修会を開催し生産者（15名参加）の意識向上につながった
- ・県外4カ所で花き市場や他県の先進事例を調査し、今後の取り組み方向を整理した
- ・植木と鉢物の生産者間での共通規格台車を相互利用した。2名が台車を5カ月間融通し、台車数を最適化することで導入コストが4割削減される効果を確認した
- ・受発注システムの操作性の確認をし、既存の情報連絡手段との労力比較をした。出荷情報の整理、納品書の作成、データ送信がデジタル化され労力低減につながった。



台車の実証試験

2. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

- ・ホームユース需要の高い難発根性の花木品目（オリーブ、スモークツリー、フェイジョア）での発根率を向上させるための最適な処理方法に関する実証

- ・オリーブの穂木は茎径3mm以上のものを用いて、葉面積を1/2に調製すると発根株率70%以上に向上することを実証したがその他品目は明瞭な結果でなかった。
- ・これまでの実証結果を技術資料としてまとめ、指導者へ配布した。オリーブについては、①挿し木期間中に高湿度を保ち、②品種の選定や③穂木の調製方法によって発根性が改善するなどの安定した苗生産を指導するための情報を記載した。



挿し木の発根試験

3. 新たな需要開拓、消費拡大に向けた地域段階の取組

- ・県産の花き花木の新たな販路拡大を目的とした市場買参人向け展示商談会の開催
- ・若年層を主とした消費者に対し、花やみどりの魅力、育てる・飾ることの楽しさなどを提案するイベント「みえ花フェスタ2024」の開催等

- ・商談会には県内の花き花木生産者26名が参加し、買参人45名に対して、産地のPRと新商品等の展示・紹介や商談を行い、約560万円の取引につながった。
- ・イベントには4,862名が来場し、来場者アンケートの結果、花や緑に興味なかった回答者のうち61%がイベント参加を通じて「興味が高まった」と回答。
- ・花育体験を行った児童等のアンケート結果では、花育体験後に50%以上が花や緑に興味をもつようになった、



花フェスタの開催

4. 産地の花き生産の課題解決に資する技術実証等

- ・天敵の利用によるハダニの防除効果実証、スマート技術による鉢花等出荷時の労力軽減効果実証
- ・花木の重量計測・かん水制御システムの実証等

- ・バラ栽培での天敵利用によるハダニ類の発生抑制効果で防除回数が約3割減少した。
- ・鉢花等積載時のアシストスーツ利用により約1割の労働負荷軽減効果が認められた。
- ・夏期の高温下で重量計測・かん水制御システムを用いて、シャリンバイに適期灌水した結果、タイマーによる定期灌水よりも水分量を一定に保つことができた。



天敵による防除試験

< 今後の取組予定 >

- ・花き流通の効率化にむけた先進地事例調査の実施、検討会の開催、植木生産者グループによる共通規格台車の導入実証。
- ・ホームユース向けに需要のある樹種の増殖の効率化・安定化に関する実証。
- ・花き花木の販路拡大にむけた市場買参人向け展示商談会、若年層の消費拡大につながるイベントの開催、小中高生や社会人を対象とした花育・緑育体験の実施。
- ・アザミウマ類、ハダニ類、コナジラミ、ヨトウガを対象に化学農薬以外の防除効果を実証、タマリユ栽培での軽量用土の保水性改善の効果実証など